

いつも大変お世話になっております。

暦の上では秋になりましたが、まだまだ残暑が続いております。皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年の夏もコロナ禍で、地域活動においても難しい状況が続いていたのではないのでしょうか。そのような状況の中でも、様々な工夫を凝らしながら活動を継続していただきありがとうございます。

さて、小地域ケア会議では各地域の状況にあわせて様々な取り組みが進められております。その中の一つに、認知症の方でも安心して暮らすことができる地域を目指した取り組みがあります。その取り組みを通して、地域のつながり強化・お互いさま意識の醸成等に繋がっております。

九月は、「世界アルツハイマー月間」です。

今月号は、地域で行なわれている認知症の取り組みについてご紹介させていただきます。

認知症理解啓発の取り組み

一部ご紹介

〈世界アルツハイマーデーと認知症理解啓発の取り組み〉

9月21日は世界アルツハイマーデーと制定され、この日を中心にアルツハイマー病等認知症の理解啓発を行っています。9月を世界アルツハイマー月間として津山市でも「オレンジ色のガーランド掲揚・認知症に関する展示・オレンジウォーク」等様々な活動を行います。

*詳しくは「社協だより9月号」をご覧ください。



Vol.16

令和4年(2022)
8月19日発行

「認知症サポーター養成講座」とは

認知症の症状や認知症の方との接し方について学び、地域で暮らしている認知症の方や家族を見守り・支える応援者を養成する講座です。サポーターの証として受講していただいた方には「オレンジリング」を贈呈しています。

日本原支部は、昨年度、約二年ぶりに小地域ケア会議を開催しました。

今年の一月には、認知症サポーター養成講座を予定していましたが、コロナの影響で延期となりました。再度協議を重ね、五月に同講座を実施し、認知症に関する基本的な知識や、実際に認知症の方と接する時の基本姿勢などについてより深く理解することができました。

二町内会でまとまった支部だからこそ、ご近所の方の様子の変化に柔軟に気づくことができます。

認知症になっても安心して生活ができる日本原を目指して、今後も様々な活動を検討していく予定です。



「認知症あったか声かけ模擬訓練」とは

認知症の症状による行方不明を想定し、道に迷っている方の気持ちに配慮して、見守りや優しい声かけをすることができるよう、声かけから連絡までを体験し、学んでいただくものです。



上加茂支部では、全戸配布のアンケート調査を実施し、その結果から「認知症になっても住みやすい上加茂支部にしたい」という声が高まりました。その声に重点を充て「認知症について知識を得ることも大切」「何かをやってみないとわからない」と協議を重ね、『認知症あったか声かけ模擬訓練』の開催につながりました。体験した中で「貴重な体験ができた」「声かけをするタイミングを図るのが難しい」「認知症の方なのかわからない、でも訓練を繰り返すことで経験を積むしかない」など参加者同士で実践を通して学んだこと、感じたことを共有しました。

そして最後に「あの時、あんな訓練があったと思えばだけでも訓練をするメリットはある」という声も届きました。

継続的な訓練を通して、「地域の見守りの輪」が着実に上加茂支部全体に広がりを見せ、浸透していることを参加者全員で実感した訓練となりました。



「オレンジウォーク」とは

認知症支援のシンボルカラーである「オレンジ色」の物を身につけて地域内を歩き、認知症の正しい理解を広め、地域に住んでいる認知症の方や家族を応援する活動です。



大崎支部では、昨年十一月に例年実施している三世代ウォーキングとあわせてオレンジウォークを開催しました。当日は、約二〇〇人の参加があり、子どもから高齢者まで幅広い年代が参加しました。オレンジ色のTシャツやオレンジリングなどを身につけ、決められたコースを一時程度歩きました。途中のチェックポイントでは、認知症に関するクイズに答えながら、スタンプラリー形式で認知症への理解を深めました。また地域を歩くことで、参加者以外の方へも認知症の啓発をすることができました。

参加者からは、「今後、認知症の方への声かけをしたい」「などの声があがっているため、今年度も認知症に関する取り組みをする予定です。」



お問い合わせ先（発行元）

〒708-0004 津山市山北520（津山市役所1階）

津山市地域包括支援センター（担当：坂手・後藤）

TEL：0868-23-1004 FAX：0868-23-1005

